

INTERVIEW



警防課主幹兼警防係長
やまもと たかひろ
山本 貴宏さん

まだ何かやりたかったー

3月14日、消防庁長官からの出動指示を受け、高遊原南消防本部から5人の隊員（第1次隊）が被災地へと出発した。2日後、

劣悪な道路条件の中、仙台市内に到着。余震が続く、雪が降り続け、ぬかるむ農地で人命検索（遺体搬送）や重機も溶けるほどの高熱を発する火災現場で消火活動を行った。第1次隊の隊長を務めた山本さんは、「テレビで見ていた被災地の映像を目の当たりにし、やっぱり本当だったのか。この中に助かる人がいるかもしれないと思った。隊の活動を終え、第2次隊へ仕事を引き継いだ。その仲間の顔を見て、隊員が無事に仕事を終えホッとした反面、疲労困憊（くんぱう）ではあったが、それでもまだ何かやりたいという思いも強かった。救護が仕事の者として、命に近い仕事もしたかった」と語った。被災地復興を願う隊員たちの思いは強い。

高遊原南消防本部 緊急消防援助隊



写真提供 高遊原南消防本部



写真提供 高遊原南消防本部



写真提供 高遊原南消防本部

右ページ 仙台港での火災防御活動
1 高遊原南消防本部から出動した緊急消防援助隊第1次隊員
2 第1次隊を引き継いだ第2次隊員（福島信二隊長）
3 甚大な地震と大津波による無残な爪あと

未曾有の被害をもたらした大震災。今、私たちにできること、そして、今、私たちがしなければならぬことは何でしょうか。被災された方々が一日も早く日常生活に戻ることができるよう義援金を集める活動や支援物資を募る活動が行われています。また、今回インタビューに

お話を伺った山本さんは「防災に

は自分の身を守ることが大事。そして、災害により被災地への通話がつながりにくくなった時には、安否確認の災害用伝言ダイヤルが役立つ」と話しました。被災地の一刻も早い復興のために、国民が一丸となり、支え合うことが求められています。



6



4



5

4 役場ロビーでの支援物資受け付け
5 集まった支援物資を衣類別に仕分けて段ボールに詰め発送
6 各地で行われている被災地支援

町ぐるみの支援